

漢方の臨床

Journal of Kampo Medicine

Published by The Association of East-Asian Medicine

4

第70巻・第4号

2023

〔主な内容〕

〔口絵〕 目でみる漢方史料館(437)	小曾戸 洋 他	366
〔口絵〕 目でみる漢方史料館(438)	小曾戸 洋	369
巻頭言	中島 正光	375
『勿誤薬室方函口訣』に引用された『療治経験筆記』	堀田 広満	377
正心湯の治験	高木 嘉子	385
大腸がん末期の患者に活血化瘀剤が著効した1症例	山口 竜司	391
救急車で何度も病院に搬送される女性に半夏厚朴湯	野上達也 他	397
飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より ^⑬	井上博喜 他	403
東京医大漢方医学センターだより(23)	矢数芳英 他	409
新 女子医大雑話(12)	山崎麻由子 他	417
医師・薬剤師リレー治験録(213)	山下 耕司	425
東洋堂経験余話(358)	松本 一男	430
漢方牛歩録(410)	中村 謙介	433
独活葛根湯の原典について	福島 裕造	435
日本、中国、イスラームの思惟的特徴から見る日本漢方と中医学(後編)		
～イスラーム哲学にみるダブルスタンダード～	田中耕一郎	441
張仲景以前の中国医療(14)	真柳 誠	450
蚊帳の枕カバー使用による睡眠に対する効果	山本 馨	457
新刊図書紹介		
洪江抽斎輯・日本内経学会翻字『靈樞講義』	小曾戸 洋	460

目で漢方史料館 (438) 『百味主能師言鈔』

解説 小曾戸 洋

先に本欄 (426) で岡本一抱の『万病回春指南』を掲示したので、今回は『百味主能診解』を紹介しよう。

掲載写真は享保十三年 (一七二八) に刊行された『百味主能師言鈔』で、本文每巻首は「百味主能師言鈔」であるが、見返しでは「(本草) 百味主能診解」となっている。巻首に享保七年 (一七二二) の結城純亨の序と寺島潤龍子治恒の「述意」(凡例 (出版説明) が付いていて、この書の成立経緯がわかる。それによると、京都の岡本一抱 (一六五四―一七一六) はかつて『百味主能』という書を著し、講義をしていた。尾張の寺島治恒は岡本一抱の名声を慕って京に上り、入門。『百味主能』の講義をまとめて『百味主能師言鈔』という書冊を作った。京都の書肆の中川 (寿延・文林堂) がこれを見てぜひ出版したいと言う。治恒はこれに応じ、尾張の同僚の結城純亨に序文を書いてもらい出版した。

治恒がこの書の出版を思い立ち、書肆中川に許可したのは岡本一抱の死去した享保元年 (一七一六) 以降のことであろう。

寺島 (寺嶋とも) 治恒は字を主鈴、潤龍子と号した尾張の医家で、実は江戸時代を代表する百科辞典『和漢三才図会』一〇五巻 (正徳十年序刊) の作者・寺島良安 (字は尚順、号は杏林堂。和気仲安伯雄法眼の門人。位は法橋) の息子である。寺島良安は有名であるが、良安・治恒父子ともに生没年は不詳である。良

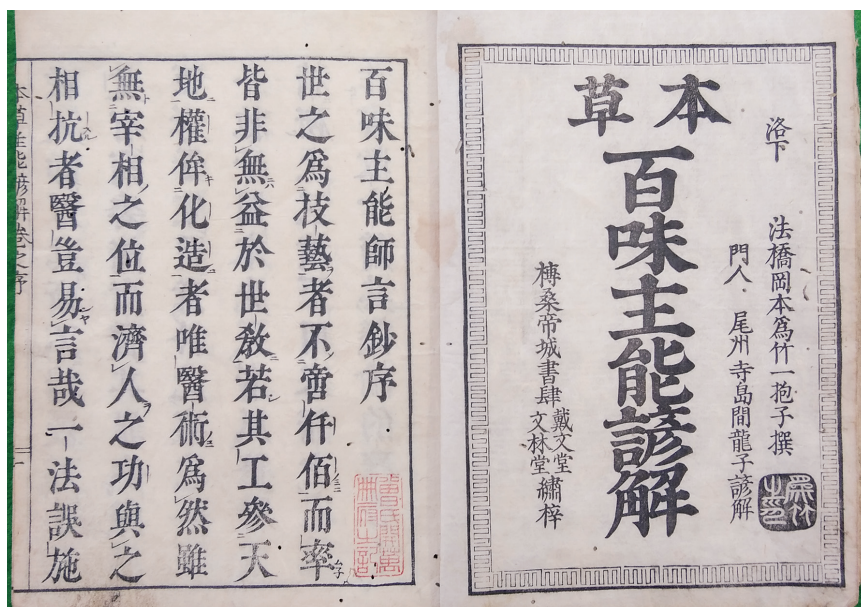
安には『済生方』五巻 (享保七年刊) の著があり、治恒は正徳五年 (一七二五) 刊の岡本一抱『中風治法指南』の校正者に伯耆の松田春竹一省と並んで名を連ねている。

『百味主能師言鈔』は書題の示す通り、臨床上必要な百種の生薬について、その師岡本一抱の解釈による効用を説いたものである。

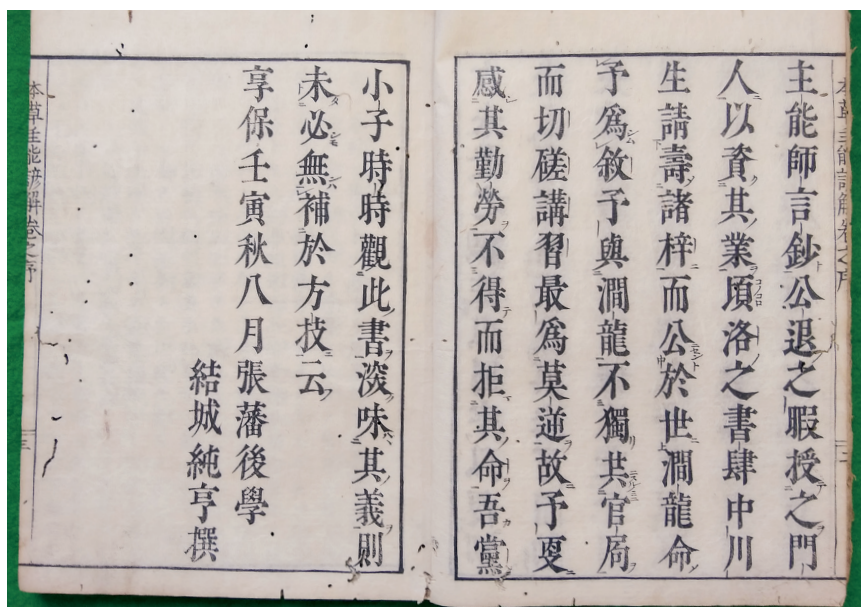
「中焦穀府」には甘草・陳皮・藿香・白朮・人參・茯苓・山薬・香附子など一六種、「補陰」には地黄・当帰・芍薬・牡丹皮・桃仁など八種、「發表」には麻黄・紫蘇・独活・防風・葛根・川芎・白芷・薄荷・細辛など一〇種、「補陽」には人參・黄耆・附子・肉桂・乾薑など九種、「解熱」には黄連・黄芩・柴胡・山梔子・知母・黄蘗・滑石・石膏など一〇種、「疎中」には大黄・芒消・枳殼・厚朴・山楂子など一一種、「痰飲」には半夏・瓜楼・天花粉・貝母・杏仁・天南星の六種、「水道」には沢瀉・猪苓・木通・車前子の五種、「雜劑」には麦門冬・天門冬・五味子・烏梅・薏苡仁・前胡・桑白皮・桔梗ほか二五種、合計一〇〇種が収録解説されている。

かつて寺師睦宗先生が『臨床百味本草綱目』という書を出版されたことがある (一九九二)。約百種の生薬の運用に通じれば、およそ漢方処方の臨床運用が可能ということであろうか。

(東亜医学協会)



▲写真1 『百味主能師言鈔』の見返し（百味主能諺解）と結城純亨序の首。



▲写真2 結城純亨序の末尾。「享保壬寅」は享保7年（1722）。

一般論文

『勿誤藥室方函口訣』に引用された『療治經驗筆記』

みちとせクリニック 堀田 広 満

はじめに

浅田宗伯『勿誤藥室方函』に収載される各処方 は 原典や条文が付せられ、その口訣が『勿誤藥室方函口訣』に記されている。『勿誤藥室方函口訣』の医王湯(補中益氣湯)には、宗伯が引用元を明記しないものの津田玄仙『百方口訣集』等と同一の口訣を認めることが知られているが、他処方に關しては既報に乏しい。津田玄仙『療治經驗筆記』が『勿誤藥室方函口訣』の口訣におよぼした影響について調査する。

方 法

『近世漢方医学書集成』に収録される『勿誤藥室方函』⁽²⁾(1877年刊、以下『方函』)、『勿誤藥室方函口訣』⁽³⁾(18

78年刊、以下『口訣』)および『療治經驗筆記』⁽⁴⁾(1795年成、以下『療治』)の内容を比較検討した。上記の『療治』は大塚敬節旧蔵の10巻揃本(以下、大塚本)であるが、木更津市郷土博物館に現蔵される津田玄仙の自筆本(以下、自筆本)が巻1、2、5のみ現伝しており、異同を調べた。

結 果

『口訣』、『療治』に共通する口訣の記載がある処方数は30であった(表1)が、『方函』および『口訣』に『療治』や津田(田村)、玄仙(玄僊、積山)の引用の明示はなかった。ただし玄仙の自序刊本『療治茶談』の引用を、『口訣』大百中飲、1処方のみ認めた。上記処方群のうち、自筆本に載るものは大百中飲、九味半夏湯、医王湯、紫蘇子湯、

17	竹葉石膏湯	竹葉石膏湯、麻疹経験良方	また張路玉の経験に病後虚渴して小便赤き者に宜しと云ふ。今、參胡芍薬湯などを用ひて其の熱解せず小便の色とりわけ赤き者、此の方効あり。また麻疹を治するに此の方始終貫きて用ひ場あり、体認すべし。	5・6	527	40	54
18	逍遙散	小柴胡逍遙散	此の方は小柴胡湯の変方にして、小柴胡湯よりは少し肝虚の形あるもの	5・6	537	193	303
19	十棗湯	十棗湯経験	前田長庵の経験に、一人手ばかり腫れて余所はさつぱりと腫れず、元氣飲食とも故の如き者、此の方を用ひて水瀉を得たれば速やかに愈えたりと。面白き手段と云ふべし。	5・6	538	161	249
20	分消湯	分消湯食穀ノ主方	一説に此の方は食穀を主とす。食穀とは嘔気、呑酸、悪食、飽悶等の症あるを云ふ。諸水腫にても食後に飽悶の意あるものに用ひて大効をとること多しと。	5・6	539	126	194
21	猪苓湯		下部水気有りて呼吸常の如くなる者に用ひて能く功を奏す。	8	591	40	55
22	柴胡桂枝乾姜湯	姜桂加茯苓湯	また水腫の症、心下和せず、築々として動悸する者は、水気と持病の積聚と合して心下へ聚る者あり。此の方に茯苓を加へて宜し。また此の方の症にして、左脇下よりさしこみ緩みがたき者、或は譫飲の症に、呉茱萸、茯苓を加へて用ゆ。	8	594	140	216
23	木防己去石膏加茯苓芒硝湯	木防己加茯苓湯	此の方は水気久しく去らず、唇口其の皮堅厚にして枯燥し、譬へば枯木の潤沢なきが如く、心下痞硬、胸中不利、微しく喘気ある者を治す。	8	594	187	292
24	防己茯苓湯	防己茯苓加附子湯	また水腫、腹堅硬にして是れを按ずに潤沢なく、譬へば革袋に水を盛りて其の上をさする如く、かさかさして堅く腫るるは陽氣の脱なり。此の方に附子を加へて効を奏すること有り。	8	596	22	28
25	沈香降気湯		また脚氣心を衝くの症に桑白皮湯或は呉茱萸湯等の苦味を苦しみて嘔吐する者に効あり。	8	601	42	58
26	甲子湯	瘀血奇方甲子湯	若し塊癰動かざる者は龜甲を加ふべし。	9	634	74	109
27	清心蓮子飲	清心蓮子経験口訣	『名医方考』には勞淋の治効を載す。(中略) 余、数年経験するに、勞動力作して淋を発する者と疝家などにて小便は佳なり通ずれども跡に残る心持ありて了然たらざる者に効あり。また咽乾く意ありて小便余濕の心を覚ゆるは猶更此の方の的当とす。	10	649	193	304
28	馬明湯	遺病目的口訣	老医の伝に、凡べて小児の病を診察するに先づ陰囊を能くみるべし。若し陰囊に紅筋ちらちらとある者は決して其の父母の遺病なりと。余これを試みるに、胎毒の者は必ず陰囊に紅筋を見し、後遂に悪瘡を発すること有り。	10	650	26	36
29	香砂六君子湯	升陽補氣湯経験	食後になると至りて眠くなり、頭も重く、手足倦怠、気塞がる者、此の方に宜し。若し至りて重き者、半夏白朮天麻湯に宜し。	10	657	69	101
30	清暑益氣湯(近製)	注夏病経験	また「弁惑論」升陽順氣湯云ふ「治飲食不節、勞役所傷、腹脇満悶、短氣遇春則口淡無味、遇夏雖熱猶有寒寒、飢則常如飽、不喜食冷物云々」、是れも亦注夏病の主方なり。	10	672	194	306

(※) 太字は考察で述べた処方。

『方函』は『勿誤藥室方函』

『口訣』は『勿誤藥室方函口訣』

『療治』は『療治経験筆記』

蚊帳の枕カバー使用による

睡眠に対する効果

介護老人保健施設あつべつ 山本 馨

緒言

認知症を患い不眠となった患者に日本産麻の蚊帳の枕カバーを使用してもらったところ、向精神薬や睡眠薬を廃薬し、エチゾラム1錠のみの服用で、質のよい睡眠が得られたことを本誌に報告した⁽¹⁾。

人の眠りには、レム睡眠とノンレム睡眠があり、それは交互に現れ、一般には睡眠サイクルが起床するまでに何度か繰り返される。また、サイクルが繰り返されることにノンレム睡眠の間隔が短く、レム睡眠の間隔が長くなるのが一般的な睡眠リズムと言われ、睡眠不足状態の人は、最初のノンレム睡眠が長くなる場合があるといわれている。

今回、蚊帳の枕カバーによる満足できる睡眠を客観的に評価するために、Apple Watchとその睡眠アプリを使って、レム睡眠、ノンレム睡眠の回数、時間などを測定した。

方法

就寝時Apple Watchを腕に巻いてもらった。その際、Apple Watch搭載の睡眠アプリを使用し、蚊帳の枕カバー未使用時と使用時の睡眠状況を記録した。睡眠アプリで得られたデータをiPhoneに送信し、その睡眠履歴から得られるデータから睡眠の質を評価した。

睡眠履歴には、全睡眠時間、睡眠時間、「覚醒」「レム」「コア」「深い」が表示される。「コア」「深い」はノンレム睡眠を示しており、「深い」は、特に熟睡度が強く外気に反応しない状態である。

症例

【症 例】 28歳、女性

【主 訴】 不眠

【現病歴】 特記すべきことなし。

【既往歴】 なし。

【経 過】 不眠に対する治療はしていなかった。

X年12月6日～12月7日、蚊帳の枕カバーは使用せず、就寝した。

X年12月7日、蚊帳の枕カバーは使用せず、Apple Watchを装着して就寝し、睡眠アプリで睡眠状況を記録